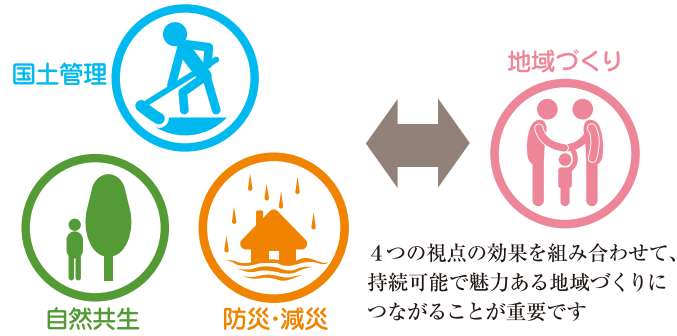


# できるだけ複合的な効果を発揮すること を考えよう

地域の課題やきっかけを元に、地域デザインの視点で土地利用の工夫にもつながる取組を考えていく時に、できるだけ①～④のような視点を組み合わせることで、国土の利用価値を高めることができます。

※必ずしも全ての視点を網羅する必要があるわけではありません。



## ①国土の管理水準等の低下を防ぐ「適切な国土管理の視点」の例

### ● 荒廃を防ぐ管理がされる

- 農地の適切な維持管理
- 森林の適切な維持管理
- 防犯面の不安や不法投棄等を防ぐような管理

→例えば… 適切な間伐等  
里山林の手入れ



美しく間伐され管理された森林 (愛知県豊田市)

### ● 適切に利活用される

- 効率的な利用の創出や維持
  - 新たな用途の創出
- 例えば… 荒廃農地を利活用

### ● 健全な水循環が維持・回復される

- 流域の一体的な管理
- 都市における雨水貯留・涵養等

## ②自然環境の保全・再生・活用につながる「自然共生の視点」の例

### ● 自然環境が保全・再生される

- 生態系ネットワークが形成される
- 例えば… 生態系の保全・再生  
緑地の創出

### ● 自然環境の機能が積極的に活用される

- グリーンインフラの取組推進
- 気候変動の緩和や適応策に役立つ

### ● 美しい景観が保全・再生・創出される

- 魅力ある都市空間や水辺空間等の保全・再生

### ● 生物多様性保全と人間活動の調和が図られる

- 野生鳥獣被害を軽減する
- 外来種の侵入や影響を防ぐ

### ● 再生可能な資源利用等が進む

- 再生可能エネルギー(バイオマス等)の活用
  - 地域での資源の循環利用が進む
- 例えば… 木材の循環利用等



海岸林等と共に自然堤防として機能している自然海岸草原 (北海道石狩市)

## ③居住の安心・安全や災害時の被害軽減につながる「防災・減災の視点」の例

### ● 居住の安全・安心が確保される

- 災害リスクの高い地域の土地利用が適切に制限される

### ● 国土の保全機能が高まる

- 農地の保全管理
- 森林の国土保全機能の向上



都市部の防災を担いつつ身近な自然の保全・再生の場としても活用される洪水調節池 (東京都野川)

### ● 災害時の被害が軽減される

- 被災リスク(脆弱性)が軽減する
- 被害拡大の防止につながる
- ライフライン等の多重性・代替性が確保される

→例えば… 緩衝材の役割  
避難地の確保等



平時は地域のコミュニティ施設として機能しつつ、津波の災害時には避難場所となる命山 (静岡県袋井市)

## ④経済的・社会的なプラス面をもたらす「地域づくりの視点」の例

### ● 経済的なプラス面がある

- 管理に係るコストが低減する
- 経済的な事業効果
- 地域ブランドの形成に貢献する

→例えば… 地域産業の活性化  
観光・イベント等  
地価が上がる  
産品開発・販売等  
高付加価値な産品等



津波で浸水した沿岸の土地で塩害に強い芝を栽培し新たな生産地化を目指す (宮城県東松島市)

### ● 社会的なプラス面がある

- コミュニティの維持・活性化につながる
- 地域外との人的交流が促進される
- レクリエーション等に活用される

→例えば… 地域の対流促進  
憩いの場  
健康増進の場  
環境教育の場



調整池の周辺に遊歩道の整備や植樹等を行い、環境教育やレジャーなど憩いの場として活用 (高知県日高村)



# 地域で土地の使い方を改めて考える

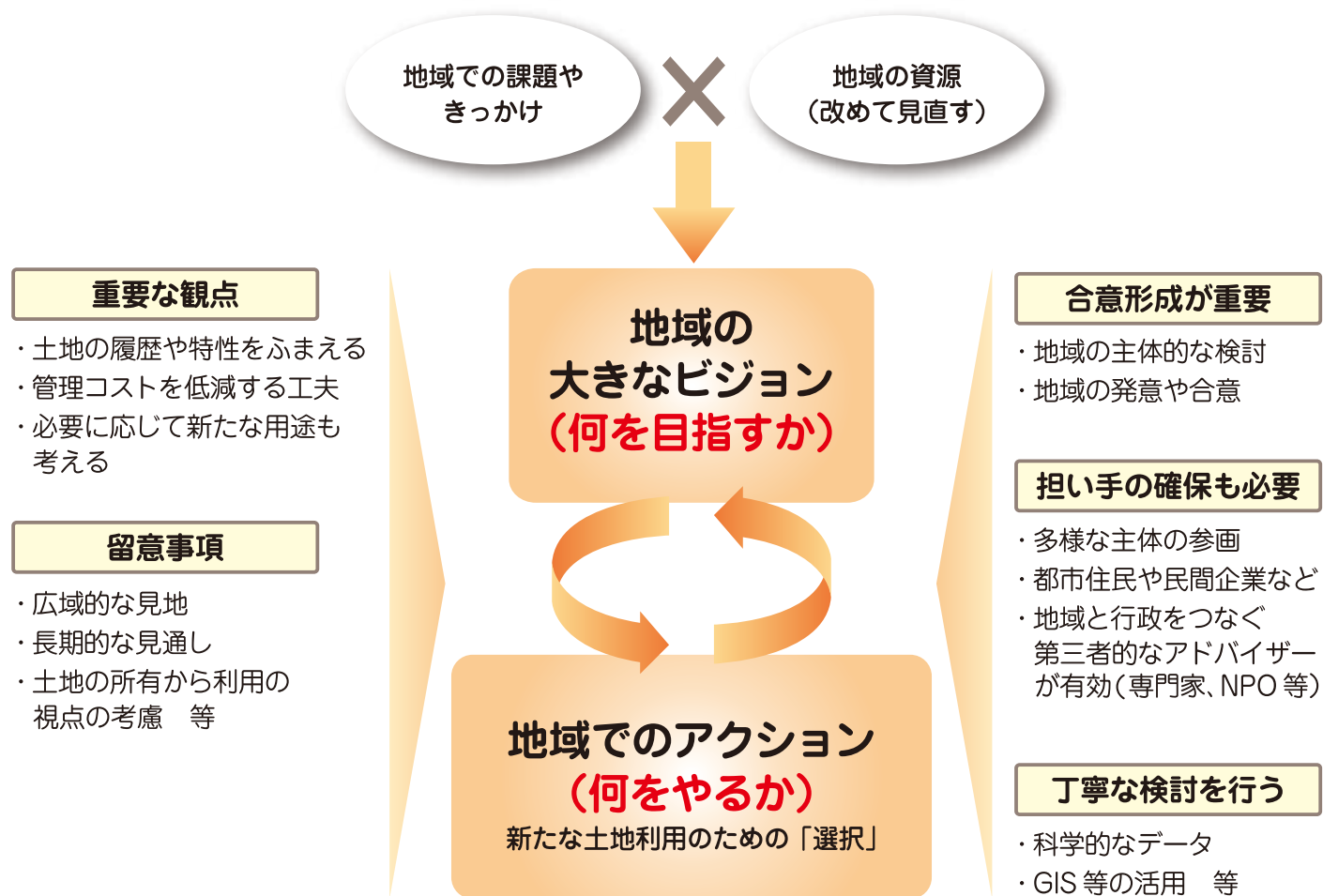
## ～選択的な国土利用～

人口が減少する時代においては、土地の管理コストを低減させたり、これまでとは違う土地利用の工夫が重要になります。一方で開発の圧力は減っていくことを考えれば、逆に新たな使い方を考えるチャンスでもあります。

「最適な使い方の選択」を考える際には、いくつかのポイントがあります。

- ・ある土地に対して、開発圧力が低減する機会もとらえ、土地の履歴や特性を踏まえて、最適な土地利用を選択すること
- ・そのプロセスの重要な観点として、住民の皆さんなど地域の様々な主体の取組によって、合意形成により自らの地域の土地利用を選択すること
- ・その結果として、コスト・手間をかける土地を選択するという側面もあること

※すべての土地について、これまでと同様に労力や費用をかけて管理することは、今後は困難になることを想定しておく必要があります。



その土地利用の背景となる条件・ポテンシャルを最大限に発揮させ、持続的な利用ができるよう、地域の状況にあわせて様々な視点で「選択」をしながら、地域デザインを実現する土地利用を検討

## 良好な状態を維持する

これまで良好に管理・保全されてきた土地について、利用目的や担い手などの工夫をしたり、発揮している効果を客観的に再評価して取組の気運を高めたりしながら、活用を継続・発展します。



車の乗り入れ規制柵の補修や利用マナー向上の呼びかけ等を行い、海岸砂丘系を保全しています(北海道石狩市)

## 荒れていたのを整える

これまで地域の生業などを通じて行われてきた良好な管理ができなくなっている土地について、以前発揮していた効果の評価や担い手が参加する取組の仕掛けなどを工夫し、本来の状態を目指した利活用・管理を行います。



洪水被害軽減のために、必要な施策が行われていない山林で適切な間伐を実施しています(愛知県豊田市)

## 土地のポテンシャルを活かし、よりうまく活用・管理する

その土地がこれまで発揮していた効果に加えて、地域課題に対応する新たな機能や複合的な効果を意識しながら、様々な活用や管理を工夫します。



多自然川づくりによる自然環境や親水性に配慮した整備が行われ、人々の憩いの場として親しまれています(東京都野川)

## 新たな使い道を見出す

新たな生産の場としての活用や、過去に損なわれた自然環境の再生など、新たな用途を見出すことで地域課題に対応する新たな効果を発揮します。



山間の荒廃した水田を利用して農村ビオトープの整備を行い、生物多様性保全や環境教育に活用しています(三重県多気町の立梅用水土地改良区)

## 自然に返す(誘導)

人口が減少する時代に開発圧力が低下することを逆にチャンスと捉え、これまでの開発や土地改変で失われた良好な自然環境の保全・再生を進めつつ、持続可能で豊かな暮らしを実現する工夫をしていきます。



国内最大級の貴重な照葉樹林を保全・活用するプロジェクトで、二次林・人工林から照葉樹林に復元する取組が行われています(宮崎県綾町)